



# 芦屋「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡隆 連絡先 090-7118-2312

<http://ashiya9.web.fc2.com/>

## 渡辺治さんの講演会を開催

芦屋「九条の会」は11月27日、渡辺治さん（一橋大学名誉教授）による講演会を92名の参加で開催しました。テーマは「非戦の誓い「9条の輝き」－改憲と軍備増強で平和は確保されるのか？－」です。

はじめに、現在の岸田政権の状況について説明。

続いて、「1. 岸田首相のめざす改憲、9条破壊のねらいは何か？」を説明。

そこでは、安倍政権が出発点で菅政権に引き継がれ、アメリカの世界戦略の転換により日米軍事同盟強化で改憲策動は新たな段階に入ったと説明。岸田政権になって衆院選で議席を後退させたものの、維新の会、国民民主党の転換で改憲勢力3分の2を維持。さらにウクライナ侵略に便乗して軍拡をすすめており、参院選でも改憲発議に必要な3分の2を確保した。

次に、「2. 自民党改憲4項目、9条への自衛隊明記はなぜ危険なのか？」を説明。

自民党は国民の憲法を守りたいとの意識に配慮して「現状の確認」と宣伝。安倍元首相も「9条解釈を1ミリも変えない」と言うがそれは真っ赤なうそで、9条の理念を180度変質させることになる。

そして、「3. 改憲や大軍拡を阻止できるか？－改憲策動の矛盾と弱点について」は、まず、国民は改憲や軍拡に迷っており、9条改憲に必ずしも同意していないことを世論調査で紹介。続いて改憲勢力も足並みが揃っておらず、運動で改憲発議を阻むことは可能であり、さらに改憲勢力の最大の弱点は統一協会問題と指摘。



続いて、「4. 改憲、軍拡を阻んで、憲法を生かす社会を！」について言及。

まずウクライナの教訓として、軍事力と軍事同盟では平和は実現できないこと、そして9条と私たちの運動が戦後日本を戦争させない国にしてきた。いま、市民に必要な行動は？改憲発議を許さない市民の行動であると主張。

むすびとして、70年戦争しない、させない国にしてきたことを次の世代にバトンタッチしていくとの決意を示して2時間に及ぶ講演は終了しました。

## 「攻められたらどうする」の質問に対して

休憩の後、時間の関係で2名の方から質問を受けました。よくある意見で、「攻められたらどうするか」という質問に対して、『攻められない日本をつくるしかない』と答えた後、『北朝鮮も攻めるのではなく攻められない国をめざしている。ロシアも日本に攻めてくることはない。中国も台湾問題でアメリカが攻めたら対応することになる』と述べられた。次に、「万一攻めてきたら」という質問に対しても、『攻める動機がある国があるかといえばそれはない。台湾問題に関わるとそれはあるといえる。しかし、中国が台湾は自国だからという主張はおかしいし、尖閣は日本だからという主張もおかしい。どちらも一方的だ』と述べられました。（世話人 福田千種）